

Oracle Fusion Middleware の今後の方向性

Guidance on product plans for the Oracle Fusion Middleware product family.

March, 2024
Copyright © 2024, Oracle and/or its affiliates
Public

免責事項

下記事項は、弊社の一般的な製品の方向性に関する概要を説明するものです。情報提供を唯一の目的としており、いかなる契約にも組み込むことはできません。マテリアルやコード、機能の提供をコミットメント（確約）するものではなく、購買を決定する際の判断材料になさらないでください。オラクルの製品に関して記載されている機能の開発、リリース、および時期については、弊社の裁量により決定されます。



Oracle Fusion Middlewareの方向性

Oracle Fusion Middlewareは、オラクルが提供する企業向けのデジタル・ビジネス・プラットフォームです。Fusion Middlewareを使用すると、企業はクライアント/サーバー、Web、クラウドの各環境で俊敏かつインテリジェントなアプリケーションを効率的に作成し、実行できます。Fusion Middlewareにおけるオラクルの戦略は、現在のプラットフォームのモダナイゼーションを継続し、クラウド・ネイティブなアプリケーションの開発とデプロイメントに橋渡し役となるテクノロジーを提供することです。Oracle Fusion Middlewareの今後のリリースでは、クラウド・インフラストラクチャへの移行の簡素化を実現し、Fusion Middlewareベースのアプリケーションを実行するための優れたサービスを提供する高度な機能をお客様に提供します。

つまり、Fusion Middlewareのお客様は、アプリケーションの優れたパフォーマンス、信頼性、セキュリティを今後も引き続き享受でき、次世代のクラウド・テクノロジーを導入する準備が整った際は移行への明確な道筋が示されます。また、今後何年にもわたって既存のFusion Middlewareソフトウェア・ライセンスのサポートを受け続けながら、お客様自身のペースでクラウドに移行できます。オラクルがアップグレードや移行を強制することはありません。

Fusion Middleware 14.1.2の製品計画

2020年3月に出荷が開始されたOracle WebLogic Server and Oracle Coherence 14.1.1は、Oracle Fusion Middleware 14.1製品ラインの最初の製品リリースです。Java EE 8およびJakarta EE 8と互換性があり、マイクロサービスとの統合が簡素化され、Kubernetesのツールとサポートが強化されているほか、オープンソースの新しいWebLogic Remote Console、Oracle Java SE 8および11、ならびにGraalVM EEがサポートされ、Oracle Databaseとの統合が改善されています。

Oracle Fusion Middleware 14.1.2は、暦年2024年のデリバリーが予定されており、最新バージョンであるOracle WebLogic Server 14.1.2およびOracle Coherence 14.1.2上に構築されます。WebLogic Server 14.1.2およびCoherence 14.1.2では、以下の領域の機能が強化され、搭載されています。

- 最新のJavaテクノロジーであるJava SE 17、Java SE 21、Jakarta EE 8のサポート
- Java SE 21に基づく環境の仮想スレッドについて、組み込みのWebLogic ServerおよびCoherenceのサポート
- Oracle DatabaseおよびOracle Database Cloud Serviceとの統合を最適化するための、最新のOracle JDBCドライバ・バージョンへのアップデート
- Helidonベースのマイクロサービスとの統合強化、Helidon 4.0での仮想スレッド・サポートの活用、MicroProfileサポートの更新
- Coherence Community Editionですでに実現されているイノベーションに由来する、Oracle Coherenceの新機能
- パフォーマンス、動的スケーリング、高可用性のためのロードバランサ・サポートの更新
- 最新のセキュリティ要件と規制要件に対処するためのセキュリティとコンプライアンスの強化
- Oracle Cloud Infrastructureサービスとの統合の改善
- クラウド・ネイティブなアプリケーションの開発とデプロイメント（Cloud Native Computing Foundation（CNCF）が推奨するテクノロジーとの連携を含む）
- ハイブリッド・クラウド環境やマルチクラウド環境での相互運用性

14.1.2の初回の一般提供時に含まれる予定の最初のミドルウェア製品は以下のとおりです。

- Oracle WebLogic Server、Oracle Coherence、およびOracle HTTP Server
- Oracle JDeveloperおよびOracle Application Development Framework (Oracle ADF)
- Oracle SOA SuiteおよびOracle Business Process Management (Oracle BPM) Suite
- Oracle WebCenter Portal、Oracle WebCenter Content、およびOracle WebCenter Sites
- Oracle Forms and Reports
- Oracle Data IntegratorおよびOracle Enterprise Data Quality

Oracle Identity Manager、Oracle Access Manager、Oracle Universal Directory、Oracle Internet Directory、およびコネクタで構成されるOracle Enterprise Identity Services Suiteは、Fusion Middleware 14.1.2をベースにしたバージョン14.1.2.1のリリースが予定されています。目標とする一般提供開始日は、2025年上半期（暦年）に設定されています。このリリースの後、以降の更新を通じて新機能が定期的に導入される予定です。さらに、ロードマップにはFusion Middleware 14.1.2に基づくOracle Enterprise Single Sign-On Suiteへのサポートの拡張が含まれます。

オラクルは、Oracle Fusion Middleware製品ファミリーがKubernetesでサポートされることをお約束します。現在、以下の製品がKubernetesでサポートされています。

- Oracle WebLogic Server
- Oracle Coherence
- Oracle Access Management
- Oracle Identity Governance
- Oracle SOA Suite
- Oracle Unified Directory
- Oracle Unified Directory Services Manager
- Oracle WebCenter Sites
- Oracle WebCenter Content
- Oracle WebCenter Portal

Fusion Middleware 14.1.2リリースでは、上記製品とOracle WebCenter PortalおよびOracle WebCenter Contentは、引き続きKubernetesでサポートされる予定です。

以前のバージョンのサポートとFusion Middleware 14.1.2へのアップグレード

オラクルは、既存のお客様に最新リリースにアップグレードする道筋を示すことができるように、Fusion Middleware製品リリースを設計してきました。そのようなアップグレードをできる限り円滑に進めるためのツール、トレーニング、専門知識も提供しています。Fusion Middlewareの旧リリースを使用しているお客様は、以下のガイダンスを考慮する必要があります。

- Oracle Fusion Middleware 11gおよび12.1.3のExtended Supportは終了しました。現在はOracle Market Driven Support for Fusion Middleware 11gを提供しています。Fusion Middleware 11gおよび12.1.3をご利用のお客様は、オンプレミス・アプリケーションについては、できるだけ早くOracle Fusion Middleware 12.2.1.4*（または使用可能な最新バージョン）へアップグレードするか、または同様のOracle Cloud Serviceへ移行することをお勧めします。WebLogic ServerおよびCoherenceをご利用のお客様は、WebLogic Server 14.1.1およびCoherence 14.1.1へアップグレードする方法もあります。

*Fusion Middlewareテクノロジーの最新バージョンのコンポーネントについて詳しくは、ライフタイム・サポート・ポリシー・ガイドを参照してください。オラクルでは、常に最新バージョンを使用することを推奨します。

- Fusion Middleware 14.1.2は、このスイートのメジャー・リリースです。お客様は14.1.2がリリースされた時点でアップグレードでき、5年間のPremier Supportと3年間のExtended Supportが標準提供される予定です。
- Oracle Fusion Middleware 12.2.1.4のPremier SupportおよびExtended Supportの日付についてはOracle Fusion Middleware Lifetime Support Policy (<https://www.oracle.com/us/assets/lifetime-support-middleware-069163.pdf>)に記載されています。
- [Oracle Fusion Middlewareエラー修正サポート・ポリシー \(Doc ID : 209768.1\)](#) に定義されているように、オラクルでは Fusion Middleware 14.1.2を長期サポートのリリースとして指定する予定です。
- Oracle Fusion Middleware 14.1.2は2024年（暦年）にリリース予定です。

WebLogic Server 15.1.1およびCoherence 15.1.1

オラクルでは、Fusion Middleware 14.1.2のリリースに続くFusion Middleware製品ラインの強化の継続を計画しています。特に、WebLogic ServerおよびCoherenceの新しいメジャー・リリースである、WebLogic Server 15.1.1およびCoherence 15.1.1の提供を2025年（暦年）に計画しています。

WebLogic Server 15.1.1およびCoherence 15.1.1には、以下のような領域の機能が強化され、サポートされる予定です。

- *Java*認定：Java 17、Java 21、およびJava 21仮想スレッドのサポートの継続
- *Jakarta EE 10*：WebLogic Server 15.1.1では、Jakarta EEプラットフォームおよびJakarta EE API仕様の最新バージョンであるJakarta EE 10を実装してサポートします。Coherence 15.1.1は、WebLogic ServerおよびJakarta EE 10 APIの使用とのシームレスな統合を可能にするように更新されます。
- *Oracle Cloud Infrastructureとの統合*：WebLogic Server 15.1.1およびCoherence 15.1.1は、Oracle Cloud Infrastructureサービスとの組込み型の統合を提供します。オラクルでは、Oracle Cloudへのオンプレミス環境の移行を簡素化する機能を提供することに尽力しています。さらに、Oracle Cloud内のWebLogic ServerおよびCoherence環境のライフサイクル管理を簡素化する機能の提供に重点を置きます。
- *アップグレード*：WebLogic Server 15.1.1およびCoherence 15.1.1では、WebLogic ServerおよびCoherenceの旧バージョンからアプリケーションをアップグレードするためのツールをサポートします。
- *サード・パーティ製のフレームワーク*：WebLogic Server 15.1.1およびCoherence 15.1.1では、WebLogic ServerおよびCoherenceアプリケーションで、“jakarta”パッケージ名（Jakarta EE 10で定義）を使用するサード・パーティ製のJavaフレームワークの使用が可能になります。
- *セキュリティ*：WebLogic Server 15.1.1およびCoherence 15.1.1では、WebLogic ServerおよびCoherenceアプリケーションの保護を簡素化し、セキュリティ標準の更新に対応するセキュリティ更新を提供します。
- *コンテナおよびKubernetes*：WebLogic Server 15.1.1およびCoherence 15.1.1では、物理マシンおよびVMへのデプロイメントのサポートの継続に加えて、クラウド・ネイティブのデプロイメントのサポートが強化されます。

オラクルでは、WebLogic Server 15.1.1およびCoherence 15.1.1に実装される追加のOracle Fusion Middleware製品のリリースの提供を予定しています。これらのリリースの範囲とタイミングについては、本書の今後の更新でお伝えします。

結論

オラクルはミドルウェア・ソフトウェアのリーダーであり続けます。当社は、お客様の投資を保護しながら、業界における数々のテクノロジーの変化に対応できるようお客様を導くことに尽力しています。Oracle Fusion Middleware 14.1.2により、オンプレミスおよびクラウドの最新デジタル・ビジネス・プラットフォームへの道筋を示し続ける予定です。

Oracle Fusion Middlewareについて詳しくは、www.oracle.com/middlewareにアクセスするか、オラクルの販売担当者にお問い合わせください。

Connect with us

 blogs.oracle.com

 facebook.com/oracle

 twitter.com/oracle

+1.800.ORACLE1までご連絡いただくか、oracle.comをご覧ください。北米以外の地域では、oracle.com/contactで最寄りの営業所をご確認いただけます。

Copyright © 2023, Oracle and/or its affiliates. 本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載されている内容は予告なく変更されることがあります。本文書は、その内容に誤りがないことを保証するものではなく、また、口頭による明示的保証や法律による黙示的保証を含め、商品性ないし特定目的適合性に関する黙示的保証および条件などいかなる保証および条件も提供するものではありません。オラクルは本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクルの書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

OracleおよびJavaはOracleおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

IntelおよびIntel XeonはIntel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARC商標はライセンスに基づいて使用されるSPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴおよびAMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devicesの商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。0120